



## reProducer Epic 5 ユーザーマニュアル

reProducer / 株式会社フックアップ



# HOOK UP, INC.

## イントロダクション

この度は、Epic 5 ステレオモニターバンドルをお求め頂き、誠にありがとうございます。

これまでニアフィールドモニターをお使いになられたことのある方は、このガイドを読まなくても適切な設置をし、素敵な体験が得られることでしょう。ただし、いくつかのケースではこのガイドに記された情報が役立ちます。このガイドを通じ、最適なモニター環境の構築と充実したミュージッククリエーションライフをお過ごしいただければ幸いです。

### Epic 5 のコンセプト

本製品はリファレンススタジオモニターとしての重要部分において、妥協を一切排した設計となっています。最も正確なサウンドパフォーマンスを得ること - それを実現するため、reProducer Audio は全ての関連要素やコンポーネントの開発に着手しました。3年の歳月を開発に費やし、完成したのがEpic 5です。このモニタースピーカーシステムは、正確なサウンドモニタリングに必要な要素 - フラットで広い周波数特性、全帯域における速いトランジェントレスポンス、広大で自然なダイナミックレンジ、そして低ノイズ、低歪みといったさまざまな点において、その目標を達成しています。Epic 5はプロフェッショナルなワークフローにおいて、適切かつ迅速な決断を下すための優れたツールとして仕上がっているのです。

### reProducer Audio / 株式会社フックアップ

#### 免責事項

reProducer Audio (以下、reProducer) および株式会社フックアップは可能な限り、本マニュアルに記載しているすべての情報を信頼できるものとして記載することに努めていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本製品および本マニュアルの記載内容は予告なく変更する場合があります。Universal Audio および株式会社フックアップは、現地法律による請求なしに本マニュアルにおける責務を拡張しません。なお、本マニュアルは、製造者の同意なく、いかなる場合においても、形式を問わずそのすべてあるいは一部を転載、複製することはできません。

reProducer-Audio-Lab, Amselweg 21, 79206 Breisach, Germany

株式会社フックアップ

東京都台東区上野 1-2-2 信井ビル別館 3F

reProducer 製品に関する詳細または最新情報はウェブサイトに記載しております：

<http://hookup.co.jp/products/reproducer>

---

## 目次

安全にお使い頂くためのガイドライン .....	4
メンテナンスについて .....	5
パッケージ同梱物 .....	5
本体概要 .....	6
設置 .....	7
設置に関するヒント .....	8
距離と音量 .....	8
ステレオイメージ .....	9
技術仕様 .....	10

## 安全にお使い頂くためのガイドライン

**安全にお使い頂くために以下の事項を熟読の上、従ってください！  
電気機器を正しく扱う際の注意点です。人体や機器への損傷を防ぐ注意点でもあります。**

- 本製品は屋内使用するために設計されています。湿気のない環境でご使用下さい。
- スイミングプールの近くや浴室など湿度の高い場所では使用しないで下さい。
- 極端に汚れた環境やホコリの多い場所では使用しないで下さい。機器の外装保護の観点でもそのような環境では使用しないで下さい。
- 機器の排熱に十分注意して下さい。パワーアンプやラジエーター等、熱源となる場所から遠ざけてご使用下さい。
- 機器に極端な振動を与えないで下さい。
- 長期間使用しない場合、機器の接続を外して下さい。
- コップ等液体を含んだ物体を機器の上、あるいはその近くに置かないようにして下さい。
- ツイーター、ウーファー、パッシブラジエーターのコーンに損傷を与えないよう、取り扱いにご注意下さい。
- 不用 / 不明物が本体内に混入していないことをご確認の上、お使い下さい。不用 / 不明物の混入を発見した場合は電源を切って接続を外し、お近くの取扱店あるいは弊社まで修理をご依頼下さい。

本製品は、聴力に害を及ぼす音量を出力することがあります。常に適切な音量調整を心掛けて下さい。想定外、あるいは目的を逸脱した使用方法においての機器損傷は保証規定の範囲を超えたことになります。また、reProducer Audio 社および株式会社フックアップはそのような使用による事故、損害に対する責務は負いかねますことをあらかじめご理解下さい。

## メンテナンスについて

- 修理に関するすべての作業は弊社認定の専門技師によって行われます。
- 本製品の外装をクリーニングする際は、乾いた柔らかい布またはブラシをお使い下さい。
- クリーニング用の化学物は外装に損害を与える可能性がありますので、お使い頂けません。

## 同梱物

Epic 5 のパッケージには以下のものが含まれています：

- Epic 5 本体 x2
- アルミニウム製スパイク x8
- シリコンパッド x8
- 電源ケーブル x2
- 専用キャリングケース
- 保証書

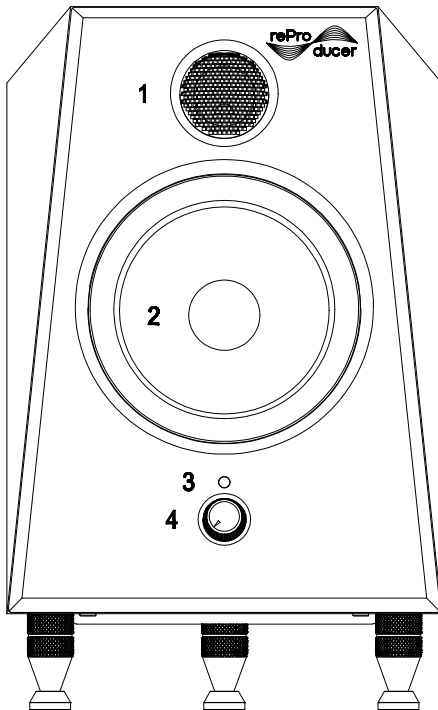
同梱物が不足している、あるいは異常があると思われる場合は、販売店もしくは弊社まですみやかにご連絡下さい。

## 開封

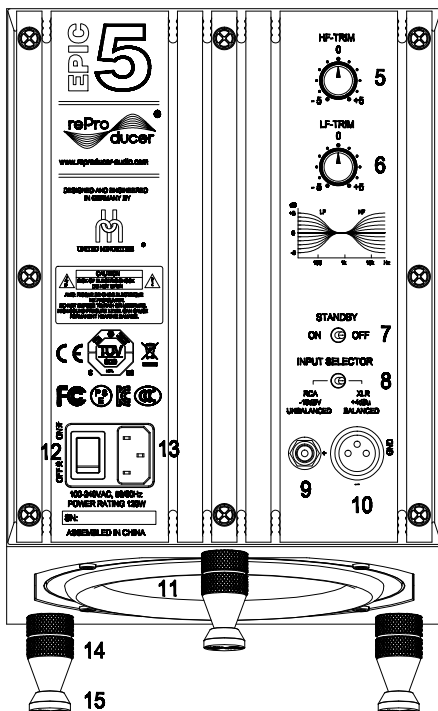
開封をする際は、はじめに運搬時によるダメージが無いことを確認しましょう。次に、ユニットを傷つけないよう慎重に取り出します。設置後には電源を投入し、動作確認を行っていただくこともお勧めします。

## 本体概要

Epic 5の各部名称/機能は以下の通りです：



名称 / 機能	
1	ツイーター
2	ウーファー
3	LED インジケーター
4	ボリュームノブ

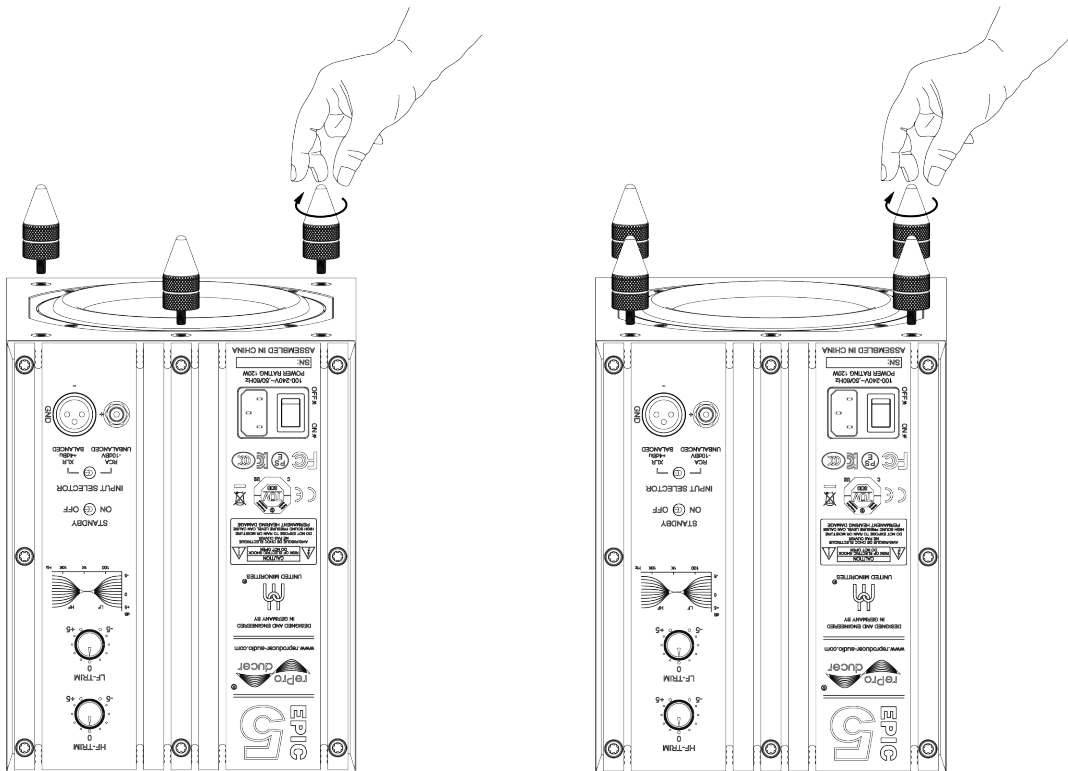


名称 / 機能	
5	高域トリム
6	低域トリム
7	スタンバイスイッチ
8	入力切り替えスイッチ
9	RCA ジャック (アンバランス入力)
10	XLR ジャック (バランス入力)
11	パッシブラジエーター
12	電源スイッチ
13	電源コネクター
14	アルミニウムスパイク (台脚)
15	シリコンパッド

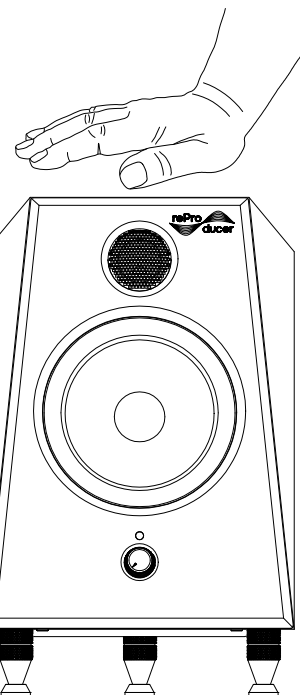
## 設置

Epic 5 は底面にパッシブラジエーターを備えているため、設置の際は付属のスパイクを取り付ける必要があります。加えて、スパイク先端に取り付け、不要な振動を軽減するためのシリコンパッドも付属しています。

1. 本体を上下返さにします（下に柔らかい布等をあらかじめ置いて下さい）。
2. スパイクをねじ込みます（スピーカーごとに3つ、もしくは4つ）。



3. スパイクにシリコンパッドをはめ込みます。



4. 最後に本体上下を元に戻し、しっかりと定着させます。

## 設置に関するヒント

ベストなサウンドを得るには、スピーカーと設置空間との作用、そしてリスニングポイントに関する配慮が必要です。ここではEpic 5に関する設置をするための情報をご紹介します。

## 距離と音量

Epic 5 はニアフィールド用に設計されています。ニアフィールドモニターはまた、メーターブリッジモニターと呼ばれるケースもあります。これは商業スタジオにおいて、この類のスピーカーはラージコンソールのメーターブリッジの上に載せて使用することに由来します。

Epic 5 は至近距離に設置することを前提にしているため、適切なリスニングポイントは0.8~1.4m (3~5ft) となります(図1)。そして耳の高さがツイーターとウーファーの間になるよう設置することを推奨します。

1.4m (5ft) 以上離れた場所に設置した場合は十分な高域特性が得られず、逆に近過ぎる場合はそれが強調されてしまうため、お勧めはしていません。

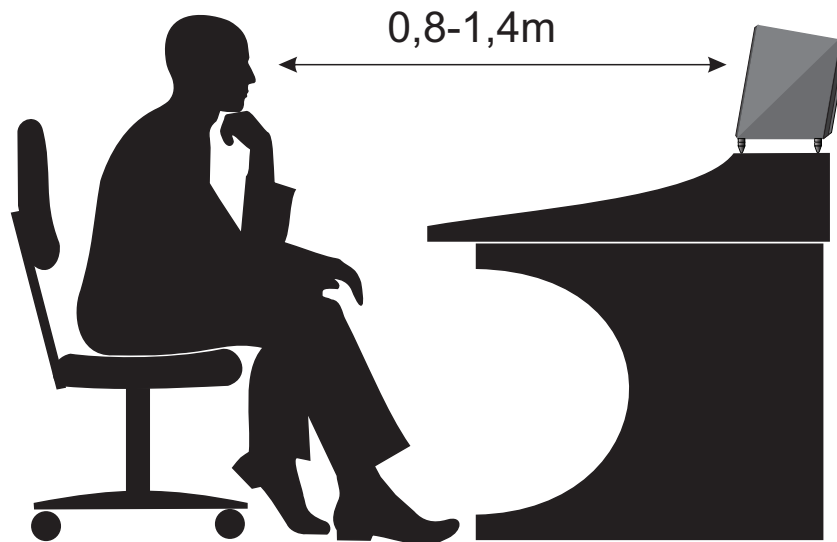


図1：水平方向で0.8~1.4mの間がベストポジションとなります。

Epic 5 のフロントパネルは若干の角度がつけられた設計になっています。これは高域と低域スピーカー（ツイーターとウーファー）のアライメントを取るための設計であるため、スピーカー面に対して90度の角度がベストではないという点にご注意下さい。以下の図例は間違ったポジションを示しています。(図2と3)

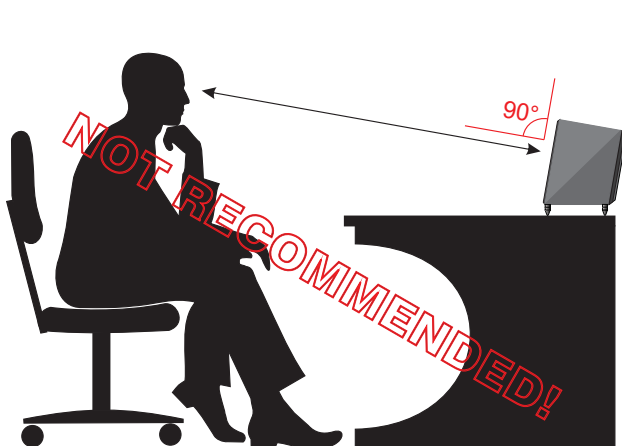


図2：設置ポイントが低過ぎます。

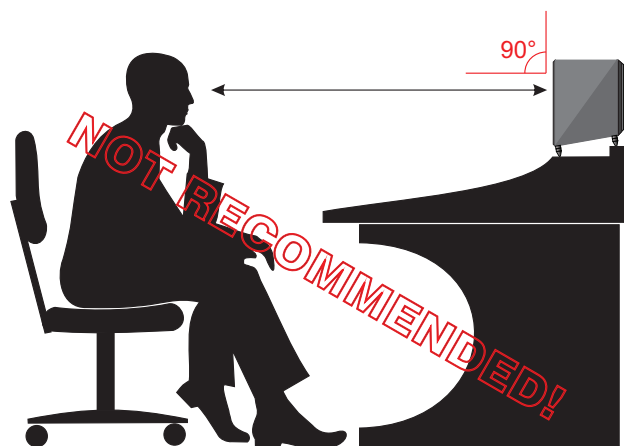


図3: スピーカーを傾けないでください。



## ステレオイメージ

正確なステレオイメージを得るため、2つのスピーカーとリスニングポイントを正三角形にしましょう（図4）。

スピーカー両側や背面からの距離をできるだけ同じになるよう心掛けて下さい。もちろん、壁素材も同じであることが好ましいです。また、モニターサウンドを濁らせる要因となりえる不要な反射音を防ぐため、スピーカーと壁の距離はなるべく取ることをお勧めします。困難な場合は吸音材等で補正をすると良いでしょう。

リスニングポイントとスピーカーの向きが非対称かつ適切でない場合、共振作用によって設計通りの特性が得られません。

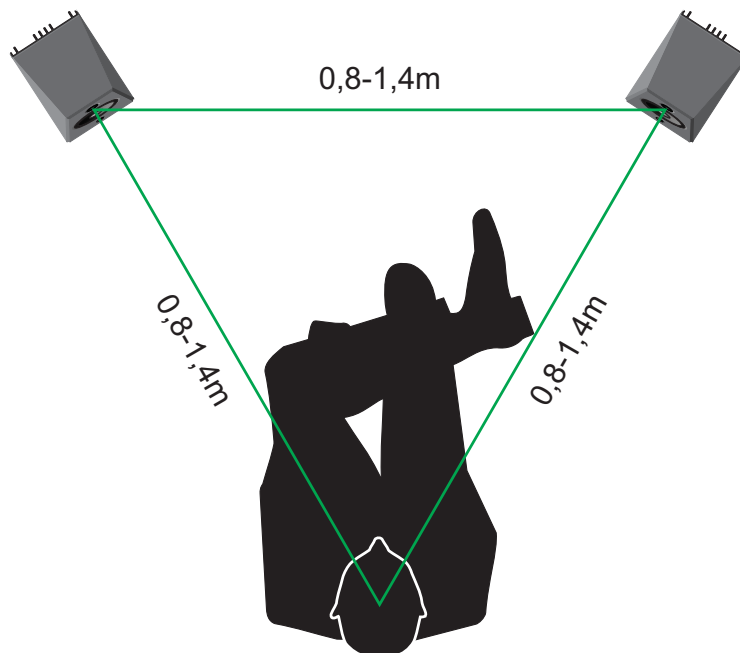


図4：リスニングポイントと正三角形になるように、左右のスピーカーを内側に傾けます。

**底面の空間** - Epic 5 から出るサウンドは、正面軸からのみでなく、底面のパッシブラジエーターから拡散された低域成分も非常に重要です。設置時には付属のスパイクを使い、デスクやスタンドとの空間を確保して下さい。スパイクの装着は本体底面の穴にねじ込むだけで簡単に済みますが、パッシブラジエーターを傷つけないようご注意ください。

**音量レベル** - 人間の聴覚の精度は音圧レベルと密接な関係にあります。大き過ぎる場合はその精度が落ちるだけではなく、聴覚に危害を及ぼすことにもご注意ください。Epic 5を使用するにあたっては、リスニングポイントで83~86dB SPLが推奨の音圧レベルになります。これを超えないようにして下さい。

マスタリングエンジニアの Bob Katz は、ピンクノイズを用い、スピーカーごとに83dB SPL（C-weighted、スローメーター設定）、ステレオでは86dB SPLになるように調整することを推奨しています。設定後、作業をしながらさらにレベルを上げる必要性を感じた場合は休憩を取るようにしましょう。

**微調整** - Epic 5 のリアパネルには、チューニングを最適化するための2バンドのトリムコントロールが用意されています。高域は2.5kHz、低域は250kHzを扱い、それぞれ1dB刻みで、±5dBの調整が可能です。

平らで硬い壁面の場合、部屋全体が明るめに響きます。この場合、高域のトリム（HF-Trim）で余分な高域を少し削りましょう。低域特性に対しては、低域トリム（LF-Trim）を調整して下さい。

**オーバーロード** - Epic 5 フロントパネルの白いLEDが赤く点灯する時は、レベルがクリッピングポイントに近づいていることを示しています。過大入力機器の破損にも繋がるため、このような場合はソース側の出力音量を下げて下さい。かなりの量の低域成分を含むオーディオ素材を扱う場合、一時的な赤の点滅であればある程度は許容されず。それでも赤く点灯する場合にはEpic 5 の高精度ゲインアッテネータで調整を行いましょう。

## 技術仕様

周波数特性	56~40,000Hz ±3dB 45~46,000Hz ±10dB
アンプ出力	2x 75W rms, 2x 150W Peak
アンプ仕様	Class D、115dBダイナミックレンジ ハイカレント、ハイダンピング 100kHz以上の特性、超低ノイズ
最大音圧 (SPL)	109dB (C) @100Hz以上、ペアで1mの距離にて計測
電源ユニット	100~240V、50/60Hz、ワールドワイド仕様
消費電力	200W (最大)
ウーファー	5.25インチ、オリジナルデザイン ファーストトランジェント パラスティックレゾナンス (不要共振) フリー仕様
ツイーター	1インチ、オリジナルデザイン、メタルドーム リアチェンバー仕様
クロスオーバー周波数	2kHz、24dB/Oct
入力インピーダンス	12kΩ @XLRバランス入力 3.3kΩ @RCAアンバランス入力
入力感度	+4dBu @XLRバランス入力 -10dBV @RCAアンバランス入力
ルーム補正EQ	±5dB/1dB単位 @ 2.5kHz (High Trim) ±5dB/1dB単位 @ 250Hz (Low Trim)
寸法 (H x W x D)	270 x 190 x 240mm (スパイク非装着時) 310 x 190 x 240mm (スパイク装着時)
重量	5.2kg

\*音圧レベル以外は1ユニットの値です。

\*技術仕様は予告なく変更する場合があります。

rePro  
ducer

